



京都市地域企業未来力会議

News Letter

令和4年

18号

3月28日（月）令和3年度第2回京都市地域企業未来力会議を開催しました。京都信用金庫QUESTIONコミュニティステップスとオンラインとで開催。6組のビジネスアイデアの発表に加え、5組の地域企業や行政から議論テーマの発表を行いました。※なお、発表者の演台前にはアクリル板を設置するなど、感染対策を実施したうえで、発表いただきました。



開催挨拶

京都市長

門川大作



京都府中小企業団体中央会

会長 阪口 雄次



感染対策と経済を両立させるとも大事なとき。早期に収束させることが経済政策だと考えている。地域企業未来力会議から企業の規模でなく志で評価する地域企業宣言が誕生し、議会とも相談し地域企業応援条例を制定してきた。共に考え行動していこうという試みである。今般、SDGsのパートナー制度を創設。あらゆる社会的課題に向き合い一丸となって取り組み、平和とイノベーションを象徴する都市、京都から発信していきたい。

京都は地域企業のまち。その強みを活かし、2030年だけでなくその先も見通し、文化と産業を融合し、地域力を活かして社会課題を解決していく。そのためにこの未来力会議がある。今日の発表も期待しています。

長引くコロナ禍で先行きが見通せない多難な時期である。そんな中、京都市地域企業未来力会議は京都の未来をつくる議論ができる素晴らしい場である。京都府中小企業団体中央会では、連携して苦難を乗り越えていくことを願い「助け合い隊」という事業が生まれ、2021年12月にはプラットフォームをバージョンアップした。本来、未来力会議にも通ずる地域企業同士が助け合い、困難をチャンスに変えることを願って展開を進めている。

今後、京都市地域企業未来力会議とも連携し、京都の未来のために結果を出していきたい。前向きな議論をいただき京都の未来をつくって参りましょう。

【第一部】 地域企業からビジネスアイデアを共有する時間



進行：風間 美穂（一般社団法人リリース）

第1部は今年度の6組のビジネスアイデアの発表を行いました。オンライン参加者からはチャット欄やグーグルフォームを活用し、会場参加者からはアンケートにより共感や応援、質問や参加などの意思表示をいただきました。また発表に対し、顧問、世話人の皆さんから、激励や提案などのコメントをいただきました。

01 向いの星付きレストラン | One Rise One Soup株式会社 中東 篤志氏



ニューヨークと京都で日本食への関係人口を増やす活動をしている。現代は日本食に触れる機会が少なくなっており、また老舗飲食店は20-30代がカジュアルな服装で行けないというイメージや情報の少なさに課題を感じている。和食文化の継承を目指し老舗飲食店の継続と、ご家庭の家事の負担軽減のため、料亭に行かなければ食べられない一品を、動画で知って買っていただけのサービスを始めた。本屋や百貨店などでも販売をした。京都だからこそできる事業として続けていきたい。

02 エシカル・フードロス・アライアンス

株式会社リーフ・パブリケーション 上山 賢司氏



京都で26年タウン情報誌を発行し、これまでグルメ情報を多く取り上げてきた。この度、フードロスになった食材を、お店同士でコラボレーションしながら活用する試み「エシカル・フードロス・アライアンス」を始めた。できるだけ楽しみながら解決していくことを大切にしている。現在、悩まれている事業者から多くのお声がけをいただくようになった。京都の1000年の歴史で培われた食材を活用する知恵も発掘できている。拡大展開を予定しているが、あえて営利事業にはしないことで発展の可能性を模索していきたい。事業者への参加の呼びかけがあった。

03 殊なり | 株式会社わらび商店 松井 一氏



わらび餅のテイクアウト専門店を伏見で営んでいる。この度、本物の食を作る体験を提供する通販サービスを立ち上げた。賞味期限20分であるわらび餅を自分で作るキットを作成し、クラウドファンディングを実施して、39日間で336人410セットを販売し、ユーザーからも好評をいただいた。SNSへの好意的な掲載が重要と感じた。実店舗では新たな収益源の確保や知名度・ブランドの向上、来店の方の創出などが生まれている。この通販サービスを利用されたい飲食店を募集し、共創によるプロダクト開発の声がけがあった。

04 ベイビーシアターキット | 合同会社あかちゃんと一緒にせかいをつくる 弓井 茉那氏



お母さんの孤独な子育ての問題にも着目しながら、特に0-2歳の子育て世帯が、文化芸術の機会からこぼれ落ちた存在となっていることから、赤ちゃんとお母さんを対象にしたワークショップを提供している。この度、指示書と舞台キットをお送りし、おうちで劇場体験を届ける「ベイビーシアターキット」をつくり、好評をいただいた。今後、1年で完成する物語として届ける展開のほか、1年に1回、演劇講演とキットの両方を届け、コミュニティも育てていく。2022年9月に公演、10月に販売のテストマーケティングを実施予定。生産を依頼しているメーカー等への声かけも行った。保育園などの施設への販売も展開していく。

05 ハッピーワークデザインラボ | 大原社会保険労務士法人 和田 紘子氏



会社も社員もしあわせになるビジョン確立講座を始めた。陽明学を取り入れながら、お互いを理解し合い、ビジョンの重なりを広げるアプローチを通じて、心のあり方で結果が変わっていくプログラム。採用環境の厳しい地域企業に対し、社員の定着率を上げ、育て、成長してもらうため、企業のビジョンと社員のビジョンを繋ぎ合わせていく。高校生、大学生にも広げていきたい。事業への応援の呼びかけがあった。

06 ごみカフェKYOTO | 株式会社夢びと 中田 俊氏



地域企業と連携し、生ゴミを堆肥に変える「LFCコンポスト」をつくり、生まれた堆肥を農家や必要とされる人につなぐ取り組みを進めている。作った堆肥を利用できていない状況があったため、京都市内の様々な場所で堆肥を回収するイベントを実施し、右京区で京都の藍染の技法を復活させている農家、農地への提供することなどはじめた。これまで1.5tの生ゴミを削減できた。また、立命館高校と京都大学の学生の授業で取り上げられたほか、行政との連携も多数生まれ始めている。一人一人が関われる循環の担い手になれる街づくりを目指していく。

【第二部】 地域企業や行政から議論テーマを共有する時間



第二部は地域企業や行政から議論テーマを発表を実施しました。第一部と同様、オンライン参加者からはQ&A画面に、会場参加者からはアンケート用紙により、共感や応援コメントを記入いただきました。

07 公民連携による柔軟な公園運営について

｜京都市建設局みどり政策推進室 葉山 和則氏



公民連携による柔軟な公園運営を目指し、「公民連携 公園利活用トライアル事業（おそとチャレンジ）」を進めている。公園は禁止事項が多いが、民間発案の社会実験を通じて、それぞれの公園の理想像について考え、行動を生み出していく。2021年度は3つの公園でBBQやアート展示など柔軟な活用が広がった。地域の協力もあり様々な成果が得られた。2022年度も13社が参加予定。未来力会議でのご縁も生まれている。宝が池公園では公民連携事業に向けたサウンディング型市場調査に着手する。幅広い主体との連携について広く声かけがあった。

08 地域企業×生物多様性 ｜京都市環境政策局環境管理課 宮田 孝司氏



我々は生態系からの恵みを受けて生活している。そのためには生物多様性が重要であるが、身近なところでは、京都らしさを支えてきたフタバアオイ、チマキザサ、オケラなどの生物資源が減少するなど、生物多様性の課題が見られる。課題の解決に向け、生物多様性に配慮した企業活動の推進などを進めており、「京の生物多様性担い手宣言制度」を通じて、実際の行動に移す人を増やしていく。2022年4月からホームページで運用を開始し、身近な取組の提示や行動の促進を行っていく。

09 U35-KYOTO | U35-KYOTOプロジェクトマネージャー 原田 岳氏、仲田 匡志氏



U35-KYOTOは、概ね35歳以下の多様なプレイヤーが対話し、U35の視点で「これからの京都」を描く企画。2020年にタブロイド誌等で想いを発信し、2年間で40プロジェクトが生まれ、2021年からは市の財政危機に着目してきた。地域の見守りや、選挙管理委員会事務局と連携した投票率UPのための社会実験も生まれ、行政サービスの代替にもなる試みも生まれている。地域企業の協賛や共創の呼びかけがあった。

10 京都市の公民連携の取組 | 京都市総合企画局総合政策室 荒木 秀次氏



社会課題の解決に向けては行政だけで取り組むことに限界がある。行政課題を提示し、一緒に取り組む企業を募集して、連携して取り組んでいく公民連携を2021年から取り組んでいる。2021年は10件の公民連携が生まれた。2022年度は、京都市地域企業未来力会議を含め、企業との連携を促進するための体制を構築し、ICTやロボット、ビッグデータ分野など、新たなステージでの連携も目指す。また企業から社会課題解決につながるソリューションを探し、拾い上げ、庁内へ繋げていく。

11 未来力会議から地域企業の会議をつくりませんか？

| 株式会社MIYACO 中馬 一登氏



これまで京都市地域企業未来力会議では、様々な地域企業の試みを生み出してきた。前回の未来力会議では、行政主導ではなく、地域企業主導での動きをつくる呼びかけを行った。その後、多数のお声がけをいただくとともに、これまで定期的な議論の場を設け、様々な意見を交わした。

「京都・地域企業 未来の祭典2022」と題し、一定期間で京都市全域で未来の実験を広げる祭りのような試みも構想中。今後も話し合う機会を作っていく。



●事務連絡

「令和3年度京都市 地域企業表彰」について

京都市では地域に根差して企業活動に取り組まれる事業者を表彰する「京都市 輝く地域企業表彰」の令和3年度受賞事業者を決定いたしました。

京都市地域企業表彰 検索 <https://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/page/0000293658.html>



新型コロナウイルス感染症対策「事業者支援ナビ」について

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響によってお困りの企業のみなさんが利用できるさまざまな支援制度情報を提供しています。お困り状況や要望に応じて、融資や助成金などのお金の支援や、経営に関する相談など役立つ情報を探すことができます。

<https://kyoto-city.wincovid19.jp/>

地域企業応援プロジェクトWEBについて

地域企業応援プロジェクトWEBについて 地域企業未来力会議の内容や、地域企業のアイデアの具体化を支援する、「地域企業応援会」等の情報を掲載しています。是非アクセスしてみてください。

京都 地域企業応援プロジェクト 検索 <https://community-based-companies.kyoto/>

発行：京都市地域企業未来力会議 事務局（京都市産業観光局 地域企業イノベーション推進室）

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 075-222-3329 FAX 075-222-3331 URL <https://www.facebook.com/kyotoshichushokigyo/>

MAIL chiikikigyo@city.kyoto.lg.jp